The Women's News, Japan

This paper's aim is to promote peace and equality from the point of view of women.

本紙は女性の視点で平和と平等を推進します

女性ニューズ
The Women's News, Japan

発行所　全国婦人新聞社　〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-7-28宝幸西新宿ビル　電話 03-3343-1846㈹　FAX 03-3348-1890
月3回発行（10日、20日、30日）　振替口座 00150-7-172320
購読料　1年　6,930円（郵送料、消費税込み・前納）

Asahi アサヒビール
洗練されたクリアな味・辛口。
アサヒスーパードライ
ビールは20歳になってから。
アサヒビール株式会社

女性取り巻く重要課題解決へ

国立女性教育会館で「平成13年度年女性学ジェンダー研究フォーラム」開く

21世紀に向けて

さらに増える不安定労働
法整備で雇用差別の禁止を

「21世紀に向けての男女平等・開発・平和―働いて生きる―」をテーマに、「平成13年度女性学・ジェンダー研究フォーラム」が、8月24日から26日まで、国立女性教育会館（埼玉県嵐山町・大野曜理事長）で開かれ、全国のほぼ全県から1500人以上が参加した。96年に始まった夏のフォーラムは、毎年人気が高く、3日間に開かれた自主企画のワークショップは合計106。今年も女性のエンパワーメントを目指し、情報を伝え、学び合い、交流を深める人たちの姿が見られた。

「働いて生きる」をテーマに

フォーラムは、4月から独立行政法人として新たにスタートした国立女性教育会館と、9人の企画委員（山下泰子企画委員長＝文京女子大教授）の共同企画という初の試み。「21世紀に向けての男女平等・開発・平和」を主題とし、今後3年の企画テーマ「働いて生きる（01年）」「社会に参画する（02年）」「私の人権（03年）」を設定した。

今日本では、失業率の上昇や、雇用形態が不安定となり深刻。その中で女性が大きな打撃を受けている。さらに家事・育児・介護の負担は依然として女性にかかっている。今年のフォーラムは、「女性と男性が共に働き生きることの現状と課題、その解決法を考えよう」というもの。

初日には、朝倉むつ子（東京都立大教授）、森ます美（昭和女子大短大教授）、吉野英岐（岩手県立大助教授）、樋口恵子（男女共同参画会議専門調査会委員／コーディネーター）さんによる、パネルディスカッションが行われた。

森さんは、女性雇用者数は210万、全雇用者の40%に達し、子どもいる世帯で共働き世帯が妻が無職の世帯を上回る（51・1%）など、女性労働の上昇を示した。しかし、2000年時点で、女性正規雇用者は53%で、2人に1人は非正規。正規の70%は男性、非正規の73%は女性であり、90年代以降の雇用流動化は、ジェンダー・バイアスに拍車をかけ、「働いて自立できない低賃金女性労働者」を作り出している。

雇用形態別の賃金格差で、男性正規社員を100とすると、女性正規は64・6（時間給／日額）。月額で高賃金順に見ると、男性の出向（130・8）、正規、契約（81・4）、派遣（76・2）で、第5位によゆく女性の出向（68・0）、6位女性正規（65・7）が登場。女性短時間パートが、最低ランクに位置し、月額8万8000円の賃金は、男性正規34万8100円の25・5%に過ぎない。

若年層に高い失業率、既婚、中高年女性に広がる求職意欲喪失など潜在的失業率の問題にもふれ、「雇用平等への逆流現象が拡大している」と、現状報告。

農山漁村の女性労働を吉野さんが話した。「多くが家族従業者として働き、共に経営を支えているが、労基法や均等法の適用外に置かれ、その労働評価は見えにくい」。解決法として「家族経営協定」で、労働時間や報酬等「労働ルール取り決め」の動きが出ている。産直品販売の「道の駅」などの起業も活発。「あうんの呼吸ではだめなのだ。会社と同様、女性をきちんと処遇する農村がうまくいくことをアピール、女性の働きを社会的に評価させていこう」と。

朝倉さんは、女性労働をめぐる法律について、改正均等法は、「間接性差別」（総合職男性と一般職女性）の禁止規定がなく、女性のみで男性への差別には言及していない。また、均等法、労基法を見ても、パートとフルタイムの労働者間の処遇差別を禁止した法律がないといい、「同一価値労働同一賃金の原則は世界の流れである。緊急に年齢差別、障害差別までも含む幅広い『雇用差別禁止法』の立法に取り組むべき」と。

「まず職場の風土を変え、性別役割分業を見直そう」と、樋口さん。女性を家計補助的労働に甘んじさせている、社会保障制度（第3号被保険者）や税制度の問題点をあげ、「少子高齢社会で、女性労働政策は両立支援へと転換。女性が働くことを、政府も企業も認め、支える方向にある。追い風を強くし、非正規雇用や封建的考え方などの向かい風に対抗していこう」。そして「政府が進めようとしている構造改革はジェンダーの視点で」とまとめた。

シンポジウムの会場も満席！

求められる均等待遇
非正規雇用の問題くっきり

いま、働く女性の半数が、非正規雇用と言われている。パートや派遣、契約社員は、たとえ専門性があっても、身分は大変不安定だ。最近では、定年後、年金受給年齢までの男性を非正規雇用で雇う傾向があり、女性の働く場も脅かされつつある現実もある。

100以上も実施されたワークショップの中でも、特に、非正規雇用をテーマにしたものは、立ち見必至、関心の高さを伺わせた。

「ワーキング・ウィメンズ・ヴォイス」が主催した「有期雇用にもっと規制を!!」では、女性関連施設で働く6人の女性に、アンケート調査。仕事内容の満足度は高いが、賃金格差、労働条件に対する不満、

また、有期契約による雇い止めの不安などが明らかに。嘱託、非正規で働く参加者から、実態が訴えられ、ILO100号条約の遵守などで、均等待遇を実現を提起。また、「実現したい！均等待遇」（均等待遇アクション2003）でも、均等待遇実現が最優先課題であることが確認された。ここでは、男女賃金差別、非常勤差別などの裁判例の事例をなどを通してディスカッション。事例の中で、ある銀行で行われている、スタンディング・オペレーション・システム（業務全てを立って行う方法）が導入され、辞める人が多いといった驚くべき例なども紹介された。

「ワーキング・ウイメンズ・ヴォイス」のワークショップで

分科会では、カードや紙芝居などで楽しく分かり易く説明

分科会から

女性差別撤廃条約意見募集

内閣府男女共同参画局は、「女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約（女子差別撤廃条約）」の「第5回報告書」に盛り込む意見を募集している。

募集内容は、女子差別撤廃条約の実施状況に関して、①は、日本の実施状況、現状として報告すべき事がら。その意見がどういうデータ、根拠に基づくものか。その解決方法について。②は、それらに関するNGOの活動など。

第4回報告書（1998年）の意見募集では、労働、教育、厚生・福祉、民法改正問題関連で約60%を占めた。

日本は、1985年に女子差別撤廃条約を批准（7月25日発効）。締約国は4年に1度、進捗状況を国連事務総長に報告し、女子差別撤廃委員会で討議される。第5回の報告書は、2002年7月25日までに作成して提出される。

募集は、9月14日まで。記載様式の入手は、内閣府ホームページ＝http：www.cao.go.jp/（男女参画コーナー）または、内閣府男女共同参画局総務課（国際担当）☎03・5253・2111（内線8317）。送付は、ホームページ、ファックス、郵送で。

締切は9月14日

内閣府

海外通信　中国＝⑲　森碧

上海から你們好（こんにちわ）！

突然だが、上海で暮らすことになった。

上海といえば、中国でも最も早いスピードで発展を続ける大都会…というイメージがある。友人たちからは、「日本と変わらない生活ができるよ」と祝福された。

上海はたしかに、おしゃれで便利な都会である。日本の街角で見かけるのと同じ世界チェーンのコンビニエンスストアもあれば、高級感あふれるデパートも山ほどある。

道を歩く人たちも日本の若者たちと大差なく（あるいはそれ以上に）ぱっちりキメている。

しかし、いくら上海は素敵な街だとみんなに言われても、私はなかなか引っ越す決心を固めることができなかった。

上海は「上海語」の世界

だって―、言葉が違うのだ！

もちろん、現在の中華人民共和国の学校では北京語をもとにした標準語を教えることになっている。

全国の街角に「標準語を話しましょう」という看板が立っていて、全国どこへ行っても同じ言葉でコミュニケーションできることになっているし、現にロシアとの国境の街・満州里でも、パキスタンとの国境が近いカシュガルでも、私が学校で教わった中国語が通じないということはなかった。

上海の言葉が違うということは、通じないというのとは少々事情が異なる。

例えば、私が初めて上海を訪れた数年前。地下鉄のキオスクで新聞を買おうとした。

標準語で「おいくら?」と尋ねた私に、新聞売りのおじさんは無愛想に「ソゴッ」と答えた。標準語なら「ウーマオ（5毛＝5角）」或いは「ウージャオ（5角＝0・5元＝約7円）」という返事がかえってくるはずのところ、おじさんは思い切り上海語で「5角」と答えてくれた。

これはもう、訛っているとかいうレベルの問題ではなかった。英語で質問したのに、いきなりフランス語で答えられたようなものだ。

どこから見てもよそ者、外国人に、いきなりローカルな言葉で返事をするという反応に、私はかなり怖気づいた。これは馬鹿にされているのか、あるいは拒否されているのだと。

この「初体験」の強烈な印象が、私のなかの上海のイメージを少々怖いものにしていたわけだ。

中国各地の街角で見かける「標準語を話しましょう」と書かれた看板

これまで4年以上暮らしてきた北京とは異なる風土、異なる歴史背景を持つ土地で、中国の異なる面を見てみたいと思ったからだ。

それに、もしかしたら、あの新聞売りのおじさんは見かけによらず、ずっと年齢がいっていて、標準語教育なんてものの恩恵など受けていない大人だったのかもしれない。

そうだ、上海人が本当はどういう人たちなのか、もう少し冷静な目で見極めてみるのも悪くない…。

最終的に、私はやはり上海に引っ越すことに決めた。

「女性ニューズ」は、読者とともにつくる新聞です

ニュースくりっぷ

◆過失利益は男女同じ
東京高裁は8月20日、交通事故死した女児の過失利益（将来得られたはずの利益）を男女同賃金で算定した東京地裁判決を支持、加害者側の控訴を棄却。従来は女性を低く算定。昨年7月奈良地裁で初めて同基準で判断。

◆トンネル工事見学会から女性締め出し
群馬県榛名町の同県発注のトンネル工事現場見学会で主催者の共同企業体が女性30人を締め出し、「山の神様が嫉妬する」!?と。

◆失業率5・0%
総務省は、7月の完全失業率5・0%と発表。調査の始まった53年以降最悪。

◆「夫婦別姓」法案政府が臨時国会に提出か
政府は「選択的夫婦別姓」に向け、民法改正案を臨時国会（9月召集予定）に提出する準備を進めている。先ごろ発表された内閣府の世論調査で選択別姓賛成が反対を上回り、制度導入の環境が整ったと。

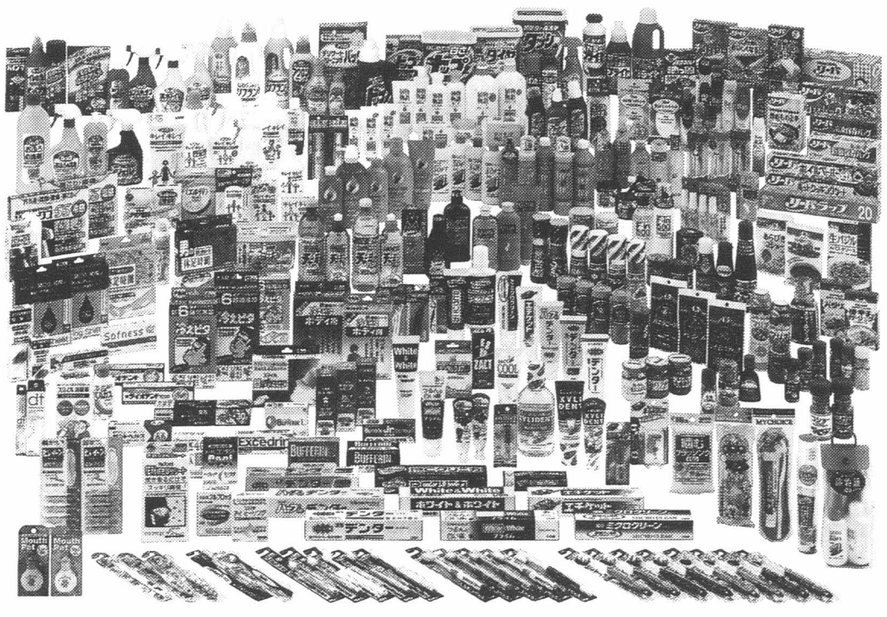
◆高原須美子さん8月19日死去、68歳。民間女性初の大臣、前セリーグ会長。

たんぽぽ

2001年の夏。暑い夏だった。首都圏では7月が殊に暑かった。「地球熱帯化」だと悲鳴をあげる毎日。

この暑さ、ただごとではない、異変が起こっているのではないかと思う日々だった▼気温だけでなく、暑苦しく気を重くさせるニュースが多かった。8月13日、急遽、前倒しで小泉首相の靖国神社参拝。15日を避けたことと、平和、不戦を言ったことを評価するという人もいる。しかし、靖国神社で行われていた特別展。「大東亜戦争」の戦闘の映像、戦死者を「英霊」とほめたたえ、あの戦争を侵略戦争とするのは「歴史の偽造」と断じる。この神社に参拝することが平和への祈りか？▼九段下駅のすぐそばの昭和館も人でいっぱいだった。戦中の子どもたちがテーマに。この館、最初の遺族会がつくった計画があまりに「大東亜戦争」肯定のため、批判も多く、戦争の原因、加害など論争になりそうなことは一切避けている。苦心はわかるが、この展示をみた若い人たちが、戦争が天災のようにどこからか湧いてくると思うのではないか、「昔のことは可哀相だったね」で終わるのではないかとむなしい気になる▼「新しい歴史教科書をつくる会」の教科書は、全国で0・1%未満の採択で終わる。「子どもと教科書全国ネット21」の声明にあったように、まさに「政府が失ったアジアの信頼を市民がつなぎとめた」と思う。しかし、「慰安婦」について殆どの教科書が記述を避けたなか、ただひとつ、アジアの女性が日本軍の慰安婦として戦場におくられたことを書いた「日本書籍」の教科書も採択が激減している。手放しで喜んではいられない。

違いを大切に、
こころときめく商品を。



おかげさまで110年
あしたに、あなたに
LION
www.lion.co.jp

（第3種郵便物認可）

権利や財産守る「成年後見制度」

全国で無料相談会

本部 03-3359-6541			
都民支部 027-224-7773	都民支部 082-511-0230		
札幌支部 011-280-7078	静岡支部 054-246-5427	山口支部 083-942-5220	
函館支部 0138-27-0726	愛知支部 052-261-2553	岡山県支部 086-226-0470	
旭川支部 0166-51-9058	名古屋支部 026-232-7492	鳥取支部 0857-24-7013	
釧路支部 0154-41-8332	新潟県支部 025-228-1727	島根支部 0852-24-2005	
青森支部 0172-26-8756	三重支部 059-213-1666	広島支部 082-247-8811	
盛岡支部 0196-23-5311	滋賀支部 0749-22-0333	愛媛支部 089-941-8065	
仙台支部 022-264-5788	岐阜県支部 058-259-7118	福岡支部 092-738-1666	
秋田支部 018-824-9055	京都支部 075-251-2466	長崎支部 095-823-4777	
山形支部 023-623-7674	大阪支部 06-6790-5643	熊本支部 096-364-2889	
福島支部 024-533-7234	兵庫支部 078-341-2755	鹿児島支部 099-251-5822	
茨城支部 029-302-3166	奈良支部 0742-22-6677	沖縄支部 0985-26-8538	
栃木支部 028-614-1122	和歌山支部 073-422-0568	沖縄支部 098-867-3526	

憲法を守る意志をシールで

憲法をとりまく状況はますます厳しい。私たち一人一人が憲法の理念を生活者の立場から活動していかなければ、憲法を守る意志を表明する署名運動を展開していきます。ちょっと人の目につくところに貼るだけ。ただそれだけ。でも、憲法を守る意志を表明する署名運動を展開しています

シングルマザーがシングルマザーに書いた本

読んで！とPRするメンバーたち

シングルマザーの当事者団体「しんぐるまざあず・ふぉーらむ」編著の『シングルマザーに乾杯！』（現代書館、本体1700円）が出版され、7月29日、東京・池袋のエポック10で出版記念交流会が開かれた。

＜シングルマザーがシングルマザーのために作った本＞とうたい、会員の共同執筆で、体験、今の生活、学校とのつきあい方、仕事のはなし、公的サービスの利用の仕方など、女性がひとりで子どもと生きていくための知恵と知識がぎっしり。どの文章も前向きで明るい。これは、離婚や非婚が恥ずかしいことでなく、多様な生きかたがあるということが、世のなかでも認められてきたからだろう。

それにしても、母子家庭の貧しさは相変わらず。家計簿公開のページを見ても、児童扶養手当などの手当てでようやく食べている状況がわかり、女性の低賃金に改めて腹がたつ。

出版記念会には東京周辺だけでなく、栃木や群馬から、会員や、いま離婚を考えているが…といった人も参加、満員の盛況だった。

同ふぉーらむの赤石千衣子さんが、「1980年、児童扶養手当が改悪されようとしたとき、大変だと集まった当事者が『児童扶養手当ての切り捨てを許さない連絡会』をつくり、必死で運動した。94年『しんぐるまざあず・ふぉーらむ』と名称を変えた。はじめたころは、集まると怒ってばかりいたが、今はあっけらかんとした感じ。シングルマザーの収入が少なく、生活が大変なことは変わっていないが、シングルマザーは賢くチャレンジしている女性という確信を持ってきたことだろう」と会の歴史を説明。

安積遊歩さんが、障害にまけず生き、子どもをつくった自分の経験を語りながら「シングルマザーは多様性と新しい価値をつくる担い手。どんどん前に出て活動し主張してほしい」と励ましと連帯のメッセージ。

そのあと、参加者の懇談会で出版を祝いあった。

共同執筆で多様な生き方
――にぎやかに出版記念交流会

ユダヤ人救った外交官「勇気の人・杉原千畝」

偉業伝える展示物を貸し出します

（上）杉原ビザで助かったマイケル・ニューウエルトさん（中央、当時11歳）はこんな大家族に

故・杉原千畝さん

ホロコースト教育資料センターでは、60年前、ホロコーストのなかで6000人のユダヤ人の命を救った外交官・杉原千畝のことを伝えるための写真展「勇気の人・杉原千畝～助けられた命のメッセージ」を9月26日(水)まで、同センター（JR・千駄ヶ谷駅下車6分）で開いているが、この展示物を、全国に貸し出すことになった。

杉原千畝の偉業をひとりでも多くの人に知ってもらい、平和について考えてほしいという趣旨で、博物館、図書館、公民館、学校などに貸し出し、日本中で展覧会を開いてほしいという。

1940年、ナチのユダヤ人虐殺から逃げようと、ユダヤ人はリトアニアに集まり、日本領事館に助けを求めた。日本はドイツと同盟を結んでいたが、領事代理の杉原はユダヤ人を見捨てることができず、自らの判断で、彼らに夜も昼もビザを書きつづけた。このビザを持ってユダヤ人たちは安全な国に逃げることができた。その数2000枚、助けた人は6000人以上になる。しかし、杉原千畝は外務省幹部の覚えを悪くし、戦後、退職せざるをえなくなり、苦労した。

ホロコースト資料センターでは、今回の企画にあたり、アメリカ、イスラエル、オーストラリア、カナダを訪問、杉原さんに助けられた人、その家族、子どもや孫32人に会い、話を聞いた。「杉原さんのおかげで、私達はこうして生きています」みな異口同音に言い、物語は語り継がれている。

展示は、60枚の写真パネルと地図、年表、キャプションパネルで、杉原千畝の写真だけでなく、助けられた人々の、当時と現在の写真で構成されている。証言のビデオもついている。キャプション作成にあたっては、ホロコーストを考える子どもボランティアグループ「小さなつばさ」（東京都）、「小さな手」（広島県福山市）が全面的にかかわり、小学校高学年の子どもでも理解できるよう、やさしい言葉でまとめた。

「勇気の人」の貸出料は1万円プラス搬送料。貸出期間2週間（原則として）。展示スペースは展示できる壁面の大きさにもよるが、学校の教室1つくらいでもできるという。「勇気の人」実行委員長の石岡史子さん（ホロコースト教育資料センター）は「21世紀を平和な世紀にするため、ひとりでも多くの人に見てほしい。高校の文化祭でやりたいと、もう3校ほどから申し込みが来ているが、もっと小さな子でも十分理解できるので、中学や小学校でも子どもたちに見せてください」と語っている。

エンジョイスパイス

世界のスパイス ▶375◀

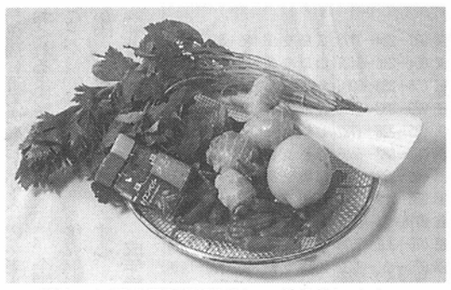
グリーン・チャツネ

ご飯やナンによく合う〝漬物〟

インド編

グリーン・チャツネは、日本的に言えば漬物。チャツネは、果物や野菜などに、スパイスで味をつけて仕上げたものです。そのなかで良く知られているのがマンゴチャツネ。もともと保存食で、食事のアクセントとして楽しみます。グリーン・チャツネは、加熱しないタイプなので、保存は約1週間程度。ご飯やナンに良く合い、美味しいものです。その他、サモサの具、サンドイッチ、チップにつけて楽しめます。

スパイスは、レッドペパーや、好みのものを加え、オリジナル・チャツネを作ってみましょう。


グリーン系の香味野菜をたっぷり使います

見た目もあざやか。さっぱり系のチャツネ

【作り方】

①セロリ、ミツバは、葉の部分を摘み、粗く刻む。

②シントウは種を取り、ショウガは洗い、皮つきのまま、それぞれ、粗みじん切り。レモンは絞っておく。

③ミキサーに①、②、クミンパウダー、カイエンペパー、塩、砂糖、レモン汁を入れ、トロリとするまで攪拌（かくはん）する。

④器に移し、ナンを添える。

（資料提供・ライオン家庭科学研究所／料理指導・園田ヒロ子）

材料（4～5人分）

セロリの葉3本分、ミツバ40g、シントウ5本、ショウガ10g、クミンパウダー小さじ1、カイエンペパー小さじ½、レモン汁1個分、砂糖小さじ2、塩小さじ1弱、水大さじ2½、ナン（市販品）適宜

朗読塾塾生募集

シアターX（カイ）＝東京都墨田区両国2－10－4＝では、このほど朗読塾を開講することになり、塾生募集中。自分以外のひとに語りかける楽しさを体験し、日本語の音声表現を習得する。

講師…川和孝（演出家）。9月14日から1年間全24回。毎月第2、第4金曜日18時30分から。高校生から60歳くらいまで。初体験者歓迎。受講料…年4800円。問い合わせ…シアターX☎03・5624・1181

出かけてみませんか

開催中

▼2000年度ワイルドライフ写真大賞展

9月10日(月)まで　10時30分～18時30分　新宿パークタワー1F「アトリウム」（新宿駅西口からシャトルバス有）　大賞写真ほか写真作品86点を展示　無料　問合せ…同所☎03・5332・6633

「遊びのあとで体を冷やすホッキョクグマ」ケナン・ウォード（米）

▼〝したきりすずめ〟のお宿はど～こ？－子ども参加型お話シリーズ第3弾－せなけいこ絵本原画展ちいさなうさぎ『はんしろう』シリーズ

9月9日(日)まで10時～17時　絵本の樹美術館（JR小海線・甲斐大泉駅7分）　大人700円、3歳～中学生300円　問合せ…同館☎&FAX0551・38・0918

9月

▼『べてるの家』その4

上映と懇親会

1日(土)13時　生活産業プラザ8F多目的ホール（池袋駅東口5分）　北海道の浦河にある精神障害を持つ人々の作業場の暮らしを描くドキュメンタリー映画。

同ソーシャルワーカーの向谷地（むかいやち）生良さんのお話と懇談会　1000円　要予約　申込み・問合せ…島☎03・3959・3813

▼日本女子大学住居学科5回生有志作品展

3日(月)～8日(土)10時～19時（初日15時から、最終日17時まで）　銀座ラ・ポーラ（地・銀座1丁目駅すぐ）　油絵、日本画、染物、墨絵、陶芸　無料

▼アフリカ平和再建委員会「ルワンダ・バナナ・アート展」

7日(金)13時～12日(水)15時まで　フォーラムよこはま（桜木町ランドマークタワー13F）　女性たちの手によるバナナの樹皮を切り絵にしたカードや絵画　無料　問合せ…事務局☎045・439・4003

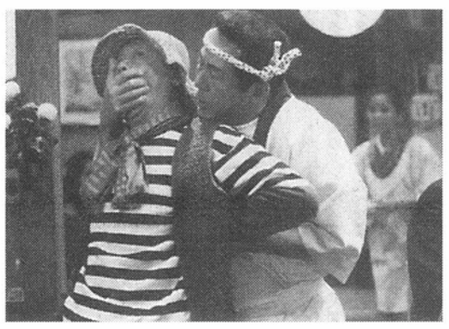
月2回発行　ブランケット版6P
Phone 03-5360-1231
不登校新聞って何だ？
http://www.futoko.org
見本紙、無料送付します
全国不登校新聞社

チャリティ映画会

障害のある500人をご招待!!

バリアフリー映画

痴呆高齢者を抱えた家族の介護がテーマ



ホーム・スイートホーム

痴呆高齢者を抱えた家族の介護をテーマに、中小企業経営者の有志が集まって製作した映画『ホーム・スイートホーム』（原作・松山善三／脚本・監督・栗山富夫／出演・神山繁、小林稔侍、風吹ジュン、酒井美紀、喜多島舞、横山道乃ほか／製作・シネマエンジェル）の、チャリティ映画会が、9月2日、千葉県市川市の市川市市民会館ホールで開かれる。

この映画会では、聴覚障害者のために字幕スーパー付きのものを上映する。バリアフリーは、住宅、道路ばかりでなく、映画にとっても必要。最近では、視覚障害者のためのヘッドホン付き映画や、聴覚障害者のための字幕スーパー付きの「バリアフリー映画」が少しずつだが、上映されるようになっている。高齢になって、聞こえが不自由になった人にも、字幕スーパー付きの映画は、非常に意義のあるものだ。

同映画会を主催する、市川チャリティ映画会実行委員会では、この映画会に障害のある人500人を招待。また、一般からの鑑賞券の収益は、社会福祉協議会等に寄付される。

9月2日（日）10時30分、13時30分、16時30分（3回上映）一般1000円（前売り800円）、未成年・学生500円（前売り400円）　市川市市民会館ホール（JR・本八幡駅か、京成・京成八幡駅下車☎047・335・1542）　問い合わせ…ギャラリー針谷☎&FAX03・3571・2229、同実行委事務局☎047・326・1441、FAX047・326・1444。

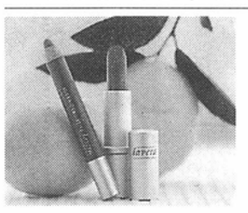
……

『ホーム・スイートホーム』のあらすじ。

元、オペラ歌手の山下宏（75歳）は、痴呆症。部屋でも街頭でも、力の限り歌い、徘徊する毎日。取り巻く娘夫婦たちの苦悩と軋轢は限界に達し、ある日、岩手のグループホーム「おばんでがんす」の前に、置き去りにした。宏は、「…おじいちゃんを預かって下さい…」という手紙を持たされ、一人たたずむ。壮麗な岩手山を背景に、「おばんでがんす」での、心やさしき日本人たちのふれあいと、再生のドラマが展開していく。

クレヨンハウス「秋の文化祭」開催

オーガニック化粧品メインに



クレヨンハウスは、子どもの本の売場、おもちゃ売場、オーガニックレストラン、自然食の八百屋など全館上げての「秋の文化祭」を予定している。その中で、ミズ・クレヨンハウスは「オーガニック化粧品フェア」をメイン企画にしようと準備中だ。

クレヨンハウスは、子どもの本の専門店として25年前にオープンした。子どもの「今」を考えるという視点から、女の「今」と重なり、さらに地球の未来もと、オーガニック食材の店、オーガニック・レストランへと展開。その流れの中で、ミズ・クレヨンハウスは女性の本専門店として15年前にオープンし、多岐に亘るイベントを企画してきた。最近は、オーガニックをテーマに生活雑貨、衣類などの販売も手掛けている。

化粧品は、女性の精神面と健康に深くかかわるモノとして、『あなたのきれいが地球のきれいに』をテーマに、安全・安心な「自然化粧品」を提案。自然化粧品を買いたいが、どこで売っているのか分からない、高い、使い方や効果が分からないなどの問題が多いことから、それらにも丁寧に答えていきたいと言う。

「秋の文化祭」では、ミズ・クレヨンハウスが選んだ化粧品を一堂に展示、販売。美容部員がデモンストレーションをし、商品説明をする。サンプル、カタログなども提供すると言う。

日時・場所＝9月8日～10月14日。クレヨンハウス東京店3階ミズ・クレヨンハウス（港区北青山3－8－15地下鉄表参道駅A1出口3分　☎03・3406・6465）

ほん　ほん　ほん

ユーゴスラヴィア「民族浄化のためのレイプ」

ベヴェリー・アレン著　鳥居千代香訳

著者は、シラキュース大学教授、旧ユーゴスラヴィア戦犯国際法廷顧問。旧ユーゴでボスニア内戦中に起こった集団レイプ、妊娠させられ殺された女性たちの問題を書いたもの。この問題で1冊の本になったのは初めてという。

こうした問題では被害者は真実をいいにくいものだが、実名で出ているヤドランカ・シゲリの場合、オマルスカ収容所で収容所護衛隊司令官にレイプされ、殺される前に運良く逃げることが出来、事実を勇気を持って告発した。彼女のことは日本でもドキュメンタリー・ビデオ「コーリンケ・ゴースト」で紹介されており、覚えている人も多いだろう。

旧ユーゴは多くの民族があり、説明を聞いても日本人にはわかりづらい面があるが、著者の立場は、ユーゴ軍、ボスニアのセルビア人、ベオグラード政府は、ボスニア・ヘルツェゴヴィナやクロアチアへの侵略者であり、セルビアは民族浄化のためのレイプを行ったという立場にたっている。そして戦時下、紛争下では、全ての側からのレイプがあるが、ユーゴの場合報告をうけた犠牲者の大多数がボスニアのイスラム教徒であり、申し立てられている加害者の大部分はボスニアのセルビア人であったと書いている。

ともかく、彼女たち被害者の勇気ある申し立てでレイプの問題が戦争犯罪として認められ、「生存している〝従軍慰安婦〟に希望を与えることになった」（CNN放送）。日本人にとっても大切な事実である。（枝）

（つげ書房新社　本体1700円）

「主婦からプロへ」

夢を実現した女性たちの記録　青木みか　高橋ますみ　編

ここに収められている10編は、自分の夢を恵まれた環境で達成した人々の記録ではない。家事、育児、介護や本人の病気など、二つも三つもの困難を背負った上で、プロへの道を実現させていて、勇気づけられる。

編者のひとり・高橋ますみさんは、新聞社の地方記者の妻として電話番にあけくれていた時、女性情報誌へ＜あごら＞を母親が手渡してくれたのがきっかけで、女性の自立をめざすネットワーク「NPOウィン女性企画」を立ち上げた。

小林とよ子さんは、25歳で夫の死に会い、子づれで大学生になり、睡眠時間を削っての勉学の末、研究者となる。婚家での辛い体験をバネに、経済的自立に向けて36歳で大学に入り、女性初の鍼灸学博士号を得るに至った中井さち子さん。最初は反対だった夫が、協力へと変わってくる例が多い。頼山陽の女弟子・江馬細香の漢詩に魅かれ江戸女流文学の研究に打ち込み、『江戸女流文学の発見』で毎日出版文化賞を受賞した門玲子さん。いずれも、ひたむきさが魅力的だ。夢を持ちながら悩んでいる女性たちを、励ましたいという出版意図は、充分に満たされた実録集だ。（陽）（風媒社　本体1700円）

「しょうがい児の母親もバリアフリー」

働いて、普通に暮らしたい　西浜優子著

＜在宅の「障害」児・者の介助者（家族）の96%が母親で、うち70%は働いていない。働いている人も半数弱がパートで、常雇は2割に満たない＞という調査に、著者は取材を重ね実態と問題点を洗い出した。

どの事例も苦労の連続だが、「障害」を持つ子どもがひとりでもいた場合には「平均的な体力ではとても務まらない」。「障害」児こそ保育が欲しいのに、受け入れを拒否する保育園もあり、手のかかる子は親がみるのが当然という世間の常識。7重保育を余儀なくされた人もある。

サービスがあっても、行政は尋ねないと教えない。学校も校長や担任次第で、親が仕事を継続できなくなったりする。学童保育もまた、指導員の熱心さで、言葉が出てきた子もいる反面、養護学校の子どもは、市立の学童保育には入れない市もある。制度は、利用者に合うよう改善されるべきで「現行制度で支えきれないケースは『特例』で拾い上げながら次の施策へつなげていくのが行政のあるべき姿」だ。

自分を大切に生きることが子どもの福祉に立ち向かう勇気になると教えられる。（陽）

（自然食通信社　本体1800円）

光を失い、優しさを書く

「そっと耳を澄ませば」（NHK出版）

著者インタビュー　三宮麻由子さん

エッセイストクラブ受賞式での三宮さん

この本は著者の2冊目のエッセイ集。第49回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した。「本当にうれしい。文章を書くことは大変で、不安な仕事。まだまだ未熟で…」と、授賞式で感動を身体全体にあらわし語っていた。

三宮さんにとって書くことは、本当に大変なことだった。4歳で失明。文字はまず点字を習うことで始まった。はじめは、さわっても簡単に読めない。指を止めずに読書できるまで、小学校時代の大半を費やしたという。書くときも点字は消しゴムで消せない。

点字は表音文字なので文庫本1冊が、点字本にしたら5冊くらいになる。「読んでも、読んでも永遠に晴眼者に追いつけないのです」。子どものころ、三宮さんの両親はよく本を読んでくれた。これが、多くの言葉に触れる機会になったという。

いまは、コンピュータで「夢のような世界」。特殊なソフトを用い、画面を音声で読み、スキャナーにつなげば墨字の本をデータに変えて音で読むこともできる。技術の進歩があってエッセイを書くことも可能になった。「でも、漢字の知識との闘いは今も続き、自分の文章がはたして受けいれていただけるか、不安でした。受賞はゴーサインを頂いたような安心感です」。

日頃は、外国通信社に勤務し、白杖をたよりに毎日通勤、政治、経済記事の翻訳を仕事としている。

前作の「鳥が教えてくれた空」は、鳥に親しみ、その声を聞き分けることから、自然の雄大さにふれていく感動を描いた作品が多かったが、この本はたくさんの思い出の音や、今聞いている音、人と温かくふれあう優しさなどが書かれている。ピアノも外国語も小さいうちから学び、アメリカに留学し、休みの日は鳥の声を楽しみに山歩きしたり、俳句の会に行ったり。恵まれた環境という人もいるだろうが、「挫折も多かったのです。最初の挫折は中学の受験。2日前になってやはり全盲ではダメと断られました。挫折の度、希望を失ってはダメと励ましてくれたのが両親〝希望〟は両親が私にくれた一番大きな言葉です」。

この本の最後。高校での講演で、高校生に、晴眼者に戻りたいですかと聞かれるエピソードだ。三宮さんは「いつも見えるようになりたいと思っている人生より、見えなくて不便だけれど、これで十分幸せと思える人生のほうが本当の意味で幸せではないかと思う」と答え、満場の拍手をもらう。そして、「自分の言葉で、自分の生きる方向を確かめることができた」と思い、質問者に感謝する言葉で終わる。純粋な文章に誰もが打たれる。